

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	ひろしまだいがくふぞくふくやまちゅう・こうとうがっこう						②所在都道府県	広島県	
27～31	①学校名	広島大学附属福山中・高等学校								
③対象学 科名	④対象とする生徒数							⑤学校全体の規模		
	中1	中2	中3	高1	高2	高3	計	高等学校普通科	605名	
普通科				201	202	202	605	中学校	366名	
中学校	122	122	122				366			
⑥研究開 発構想名	瀬戸内から世界へ！ 世界から備後へ！ ーグローバルイノベーションと合意形成を柱にー									
⑦研究開 発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○ グローカルなテーマを設定した課題研究を、「研究の方法を学ぶ」、「解決の技を身につける」、「研究の実践」と、経験や発達の段階を考慮した段階的な構成にすることで、効果的に「経験知」を蓄積し、高次の知の総合化をはかる中高一貫の課題研究「グローバルプログラム」を開発する。 ○ クリティカルシンキングを基盤にした、「合意形成」能力や交渉力など、高次の能力を育成する課題研究特別講座「スーパーグローバル」を、大学等と連携して開発する。 ○ 地方に根ざしてグローバルな視点からのイノベーションを生み出していく、地方と世界をつなぐグローバルリーダーや地方創生リーダーを育成するために、グローバルな題材で社会スキルの伸長を図る、新教科「現代への視座」や既存教科の教材等を開発する。 ○ グローバルリーダーに求められる資質・能力の構成要素について仮説を立て、それらの評価方法を開発する。 									
⑧研究開 発の 内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>理想とする生徒像（目的）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ◇「自由・自主」の精神 ◇「基盤となる教養」の獲得 ◇「クリティカルシンキング」の実践 ◇「問題解決」の経験知の蓄積 ◇「他者へのまなざし」の体得 </div> <p>研究開発の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 実地調査や体験を重視した課題研究「グローバルプログラム」の開発 2 「合意形成」を柱とする、21世紀型能力を育成する中高一貫カリキュラムの開発 3 課題研究等の質的向上のための、企業や大学等との連携・協力方法の開発 4 資質・能力の評価、ならびにカリキュラム評価の方法の開発 </div> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>A 社会スキルの育成 現状の「限定された人間関係」から、学校やクラスの枠を、さらには国を超えた異文化間での「協力」や「つながり」を取り入れた実践へ。</p> <p>B 課題研究の運用 現状の「課題研究に対する個別の指導体制」から、外部との連携を強化した組織的な指導体制へ。</p> <p>C 課題研究の指導方法 ケーススタディなどを取り入れ、継続して疑問や課題を深化させる指導方法へ。</p> <p>D 基盤となる教養の習得と活用 頭での理解から、実体験に基づく経験知の蓄積へ。</p> <p>E スーパーグローバル大学創成に取り組む広島大学との連携と接続のあり方 これまで以上の広島大学との連携の強化により、全国に範となる高大接続システムの構築へ。</p> <p>F 能力や態度の評価 研究開発での蓄積と広島大学のリソースを活かした高次の能力の評価方法確立へ。</p>								

		<p><仮説Ⅰ>課題研究を「研究の方法を学ぶ」「解決の技を身につける」「研究の実践」と段階的な構成とすることで、効果的に経験知を蓄積し、合意形成能力や認知スキル、社会スキルなど高次の知の総合化をはかりながら、熟考した提言ができるようになる。</p> <p><仮説Ⅱ>広島大学などのグローバル体験を有する人材を核に、「国を超えた課題」や「世界共通の課題」に対する議論を行い、アイデアを出し合いながら、最終的な合意文書を作成するなどのグループ活動を展開する特別講座「スーパーグローバル」を実施することで、「合意形成」能力など、高次の能力を効果的に育成することができる。</p> <p><仮説Ⅲ>グローバルリーダーに求められる資質・能力の構成要素を明確にし、それらを育成するために適した教材や協働学習などの指導方法を開発し、全教員がねらいを共有しながら実践することで、認知スキル、社会スキルの伸長が図られる。</p> <p><仮説Ⅳ>評価が難しい高次の能力や態度の評価手法を研究開発することで、形成的な評価やカリキュラム評価を客観的に行うことができるようになる。</p> <p>(3) 成果の普及 課題研究発表会、公開教育研究会、ICTを活用した発信、報告書の作成</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題 研究</p>		<p>(1) 課題研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域」の問題を出発点に「世界」を考え、「世界」から「地域」を見つめ直すテーマ設定により、地域に根ざしグローバルな視点からのイノベーションを生み出していくグローバルリーダー・地方創生リーダーの育成につなげる。 ・「国を超えた課題」や「世界共通の課題」をテーマに、留学生や大学院生をファシリテーターとしてグループ討議を行い、価値観の異なる国の生徒との「合意形成」の経験知を蓄積する課題研究特別講座を開発する。 ・広島大学の海外協定大学やその附属学校との交流や協働学習を推進する。海外の提携校との交流にも「合意形成」を含むプログラムを導入し、高次の能力の育成を図る。 ・経験知を蓄積しながら地域から世界へ発展していく中で、必然性のある形で海外実地調査を実施し、発表会等を通してその成果を全ての生徒に還元する。 <p>(2) 実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学や企業との連携・支援、ICTを活用した指導体制などを構築する。 ・資質・能力の評価指標を開発し、生徒の変容を捉えることで成果を検証する。 <p>(3) 必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究「グローバルプログラム」を新設するために、特例により以下の高等学校における必修科目について、教育課程の変更を行う。 高校1年公民科 選択必修科目「現代社会」（2単位）を学校設定教科に変更 高校2年情報科 選択必修科目「情報の科学」（2単位）を学校設定教科に変更
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記 以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル人材に求められる資質・能力の柱となる、クリティカルシンキングを育成するために、新教科「現代への視座」や既存の教科で教材や指導方法の開発を行う。 ・当校の研究開発での蓄積と広島大学のリソースを活用した、資質・能力を測定する評価手法の開発を行い、形成的評価や改善、カリキュラム評価を実施する。 <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校設定教科「現代への視座」を新設するために、特例により以下の中学校における教科について、教育課程の変更を行う。 中学校3年理科 140時間のうち105時間を新教科「現代への視座」に変更 <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用による①授業方法の改善、②成果の発信、③課題研究の指導体制の構築 ・教員のグローバル化のための研究推進 ・地域や自国の文化理解プログラム ・卒業生の人材活用
<p>⑨その他 特記事項</p>		<p>広島大学との連携により、他のSGH校やこれから取り組もうとする学校への積極的情報提供を行うとともに、様々な形で地域へ成果を還元する。</p>

ふりがな	ひろしまだいがくふぞくふくやまちゅう・こうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	広島大学附属福山中・高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	970人
	SGH対象生徒以外:		人	667人	人	人	人	人
目標設定の考え方：自主参加型の自己研鑽やボランティア活動など、これまでも積極的に参加する生徒が多かったが、全員を目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	25人
	SGH対象生徒以外:		12人	13人	人	人	人	人
目標設定の考え方：SGHによる資質や能力の育成と関心・意欲の高まりにより増加は期待できるが、ISなどの海外情勢の懸念も大きい。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		%	70%	%	%	%	%
目標設定の考え方：26年度の値が高いので、さらなる増加はかなり厳しい目標となるが、当校のSGHの趣旨の浸透により向上させたい。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		0	0	人	人	人	人
目標設定の考え方：これまで自然科学分野中心だったので、グローバルな社会やビジネス課題に関する参加や応募を推奨し、入賞を目指す。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	30%
	SGH対象生徒以外:		36%	26%	%	%	%	%
目標設定の考え方：25年度は英検2級以上取得者、26年度は英語力調査による。26年度の値が高いので、さらなる増加はかなり厳しい目標となるが、SGHによる学習意欲の喚起により向上させたい。								
(その他本構想における取組の達成目標)								
f	SGH対象生徒:							
	SGH対象生徒以外:							
目標設定の考え方：								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	80%
	SGH対象生徒以外:		72%	58%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 過去(24年度以前を含む)は年による変動が大きいので、目標値としての設定である。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	2人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
目標設定の考え方: (卒業生200人中の数値) 本人の意思や学校の指導での影響以外の要素が大きいため、目標値としての設定である。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	50%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 中学校・高校6年間で取り組む課題研究「グローバルプログラム」の履修は生徒の進路への影響も大きいと考えられる。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	40人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: (1学年200人中の数値) 大学院進学者も多いので、大学院まで含めて海外への意欲を持たせるように努める。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	0人	0人	人	人	人	人	人	50人
目標設定の考え方: 海外交流提携校と現地で合意形成プログラムに取り組むことを含む数値として、目標値を設定。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	0人	15人	人	人	人	人	人	400人
目標設定の考え方: 4年課題研究「体験グローバル」は全員、他の学年では希望者で参加者を想定。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	0校	1校	校	校	校	校	校	4校
目標設定の考え方: 英語を母国語とする: 2校、英語を母国語としない: 2校を想定。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	10人	10人	人	人	人	人	人	100人
目標設定の考え方: 留学生・大学院生等、合意形成プログラムのファシリテーター(40人)と課題研究の指導大学教員等(60人)を想定。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	0人	4人	人	人	人	人	人	30人
目標設定の考え方: 4年課題研究「体験グローバル」の各講座(10人)、5・6年「提言」の指導(20人)を想定。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	0人	0人	人	人	人	人	人	20人
目標設定の考え方: 国連関係の大会やディベート大会などへの参加を、中学生も含め、積極的にはたらきかける。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	3人	1人	人	人	人	人	人	5人
目標設定の考え方: 帰国特別枠は設けていないが、留学生等の受入体制を整備する。								
先進校としての研究発表回数								
h	0回	0回	回	回	回	回	回	5回
目標設定の考え方: 毎年実施している公開研究会、隔年の広島大学附属学校フォーラム、全附連大会、学会等での指導法研究など								
外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	△	△						○
目標設定の考え方: 現在は日本語ページを簡略化した形だが、今後充実を図る。								
(その他本構想における取組の具体的指標)								
j								
目標設定の考え方:								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について (併設の中学校も含めて実施)

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	972	971	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							